



CHUGAI

Roche ロシュ グループ

2026年12月期 第3四半期決算説明会

2026年10月27日

中外製薬株式会社

創造で、想像を超える。



重要な注意事項

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

Core実績

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とは、IFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであります。なお、当社が非経常事項と捉える事項は、事業規模や範囲などの違いによりロシュと判断が異なる場合があります。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

注：

- ・ 本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示。増減、％は億円単位で表示された数字で計算
- ・ 本資料の増減金額の表記は以下の通りです。
 - ① 収益及び原価・費用の増減は、増益方向を「+」、減益方向を「△」で表示
 - ② 増減率は金額の「増」「減」をそれぞれ「+」「△」で表示

Agenda

01 2026年第3四半期の総括

代表取締役社長 CEO

奥田 修

02 2026年第3四半期 開発パイプラインの状況

上席執行役員

プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司

03 2026年第3四半期 連結決算(Core)概要

取締役 上席執行役員 CFO

谷口 岩昭

2026年第3四半期の総括

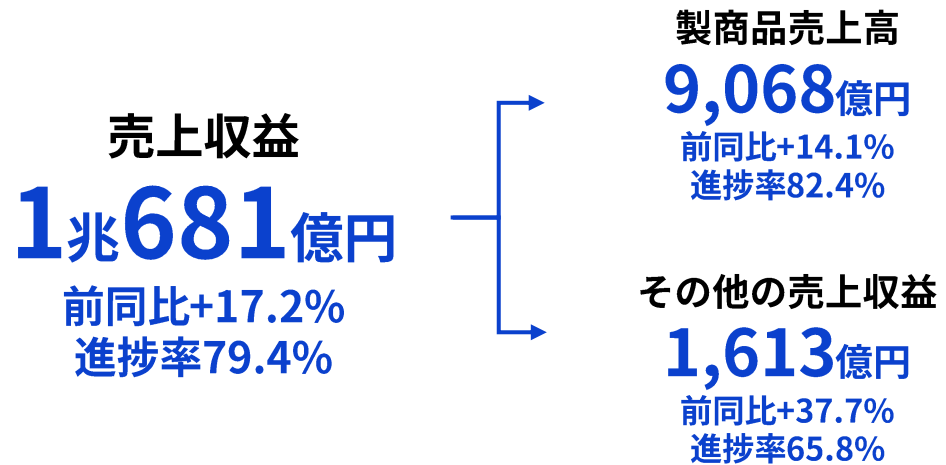
代表取締役社長 CEO

奥田 修

Executive Summary

2026 3Q Key Financial Update

(第3四半期Core実績)



営業利益
5,361億円
前同比+19.0%
進捗率80.0%

営業利益率
50.2%

Financial Overview :

- 増収増益の決算。通期予想に対し順調に進捗し、過達を見込む
- 製商品売上高は国内外ともに順調に推移。NEMLUVIO*輸出の増加や、国内のルンスミオの増加が牽引
- その他の売上収益はヘムライブラ、NEMLUVIOのロイヤルティ収入、および一時金収入により増加

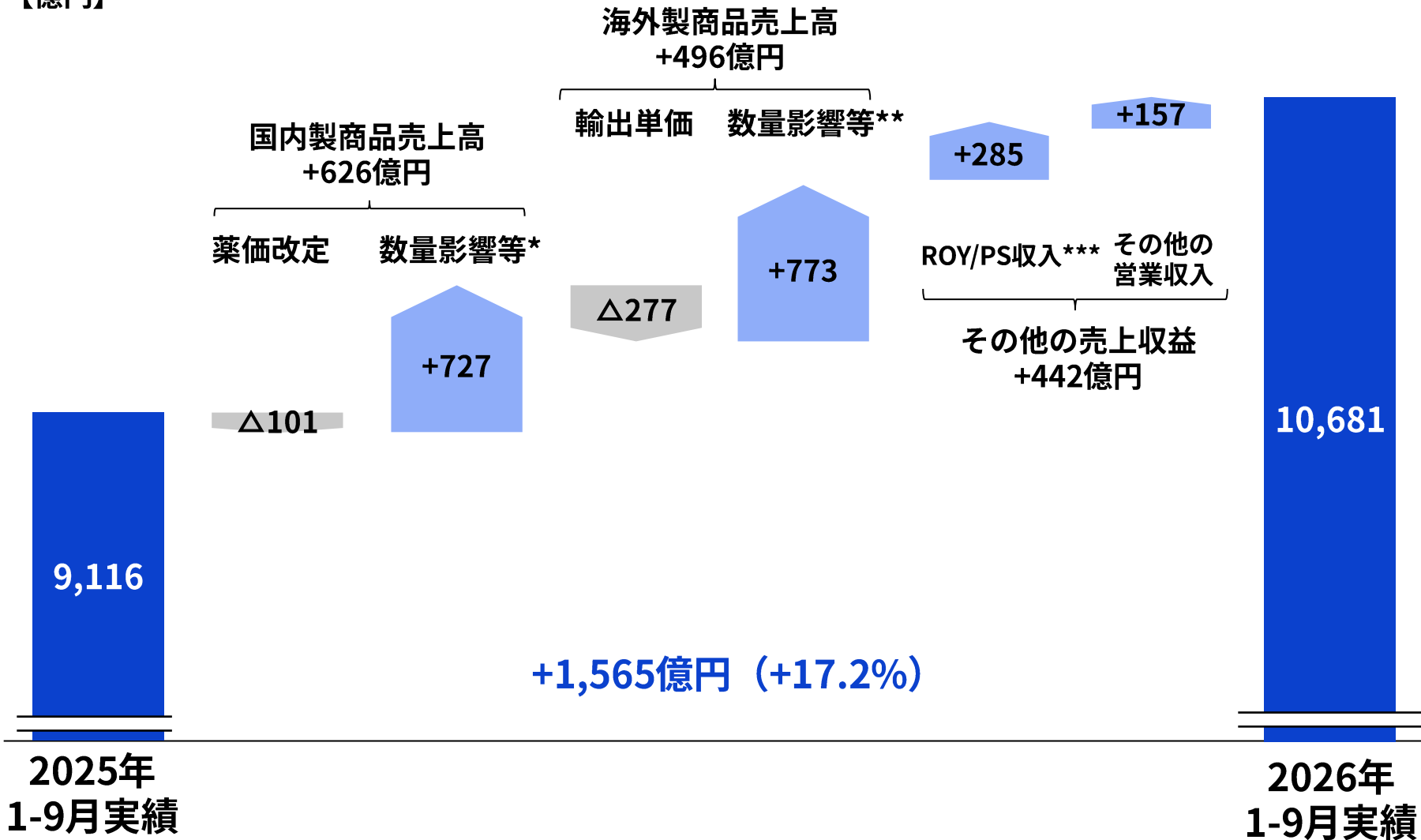
Business Overview :

- ヘムライブラのオートインジェクター、国内外で来年の上市を目指す
- 米ラスカー賞を受賞**、創薬力の向上と持続的な成長につなげる

*NEMLUVIO(nemolizumab)、ガルデルマへ導出 **ラスカー・ドゥベキー臨床医学研究賞

Topline Overview

【億円】



- 国内売上
薬価改定や後発品浸透等の影響を受けたものの、主力品および新製品が増加し、前年同期を上回る。
なお、次世代基幹業務基盤の稼働に向けた移行対応として、出荷時期を前倒しし、売上高が増加。
- 海外売上
ガルデルマ向けのNEMLUVIO輸出の大幅な増加に加え、ロシュ向けのアレセンサ輸出が増加し、前年同期を上回る。
- その他の売上収益
ヘムライブラ、NEMLUVIOに関するロイヤルティ収入の増加に加え、一時金収入の増加により、前年同期を上回る。

ヘムライブラを生んだ創薬力を、次の創薬と持続的な成長へ

独創的な発想と創薬技術が評価され、研究者3名がラスカー賞を受賞

- ✓ 「血友病Aの方々のご家族の負担を軽減したい」という想いから生まれた独創的な発想
 - ✓ 発想を医薬品へと結実させた分子の設計と製造技術の開発
-
- 前例のない課題にも自ら考え、挑み続けるフロンティア精神を継承し、組織全体の創薬力を一層高める
 - 独自の技術とサイエンスを軸に、革新的な医薬品を継続的に創出し、持続的な成長につなげる



Credit: Lasker Foundation

2026年第3四半期 開発パイプラインの状況

上席執行役員 プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司

3Qトピックス (1/2)

承認	エンズプリング	甲状腺眼症（TED）（米国）	2026年10月
申請	エンズプリング	MOG抗体関連疾患の再発予防（日本）（先駆的医薬品指定）	2026年7月
		MOG抗体関連疾患（米国（優先審査指定）、欧州）	2026年7月
	ヘムライブラ	オートインジェクター（剤型追加）	2026年8月
	バミキバルト	非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫（UME）（日本）	2026年8月
	テセントリク	高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する結腸がんにおける術後補助療法（日本）	2026年8月
試験開始	AQUA07	ALK陽性非小細胞肺癌	P1（2026年7月）
	cevostamab	再発または難治性の多発性骨髄腫	P3（2026年8月）
開発方針 変更	emugrobart/GYM329	肥満症：開発中止 脊髄性筋萎縮症（SMA）：自社（第三者への導出含む）での開発再開に向けた準備開始	—
Readout	ルスミオ	CELESTIMO試験（P3）（濾胞性リンパ腫（2L））	2026年9月
	セーファキセルセン	IMaGINATION試験（P3）（IgA腎症）	2026年9月

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）

3Qトピックス (2/2)

学会発表	divarasib	ESMO2026：Krascendo 1試験（P3）（非小細胞肺癌）	2026年10月
	セーファキセルセン	ASN：IMaGINATION試験（P3、中間解析）（IgA腎症）	2026年10月
	スパルセンタン	ASN：RE-021-001試験（国内P3）（IgA腎症）	2026年10月
	バミキバルト	AAO2026：MEERKAT試験およびSANDCAT試験（P3）（非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫）	2026年10月
	LUNA18	ESMO2026：P1試験（固形がん）	2026年10月
希少疾病用 医薬品指定	cevostamab	再発または難治性の多発性骨髄腫	2026年9月
契約締結・ 導出	—	カリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）、創薬研究に関する共同研究基本契約	2026年6月
	AID351	GSK社に導出（デング熱を含むフラビウイルス感染症）	2026年8月
	SPYK04	InxMed社へ導出（全適応症）	2026年9月

【今後の学会発表予定】
ICDS 2026（International Celiac Disease Symposium、2026年11月17日～20日）にて、DONQ52について、セリアック病患者を対象としたP1a/b試験およびP1c試験におけるBiological PoC結果を発表予定。

2026年 主要なR&Dイベント

下線・太字：2026年7月24日からの変更点

	開発品（製品）名	予定適応症 / 試験名	進捗状況
承認 予定品目	アレセンサ	ALK融合遺伝子陽性の進行・再発の固形がん（日本）	承認 ○
	ルスミオ+ポライビー	再発又は難治性の大細胞型B細胞リンパ腫	承認 ○
P3/ピボタル試験 Readout	エンスプリング	METEOROID試験：ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質抗体関連疾患（MOGAD）	PE達成 ○
	divarasib	Krascendo 1試験：非小細胞肺癌（二次治療）	PE達成 ○
	ギレデストラント	persevERA試験：ホルモン受容体陽性乳がん（一次治療）	PE未達 ✕
	ルスミオ	CELESTIMO試験：濾胞性リンパ腫（二次治療）	<u>PE達成</u> ○
	セーファキセルセン	IMaGINATION試験：IgA腎症	<u>PE達成</u> ○
P2試験 Readout	emugrobart +エブリスディ	MANATEE試験：脊髄性筋萎縮症（SMA）	自社での開発再開 に向けた準備開始 △
	emugrobart	MANOEUVRE試験：顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー（FSHD）	開発中止 ✕
		GYMINDA試験：肥満症	<u>開発中止</u> ✕
試験開始	NXT007/zemocimig	ZEBRHA 1試験（P3）：血友病A（血液凝固第VIII因子製剤との比較）	試験開始 ○
		ZEBRHA 2試験（P3）：血友病A（ヘムライブラとの比較）	試験開始 ○
		P3試験：血友病A（小児）	
	DONQ52	P2試験：セリアック病	試験開始 ○

ヘムライブラによるさらなる患者さんへの提供価値

- 約10年にわたり様々な臨床背景の患者さんにて有効性・安全性が観察された本剤の、治療負担のさらなる軽減を目指してオートインジェクターを開発
- 国内外で2027年の上市を目指し、国内は2026年8月に医薬品製造販売承認申請を完了

ヘムライブラ® 国内でのオートインジェクター製剤の開発経緯

- 血友病A治療に関わるさまざまな方々との対話を通じてアンメットメディカルニーズの解決に取り組む中で、患者さんがより簡便に治療継続できる環境の構築を目指して、投与デバイスの開発を検討してきた
- 患者さん、ご家族が注射の準備や操作に対して感じる負担や不安の軽減につなげることを目指して、オートインジェクター製剤の開発に至った

<目指したこと>

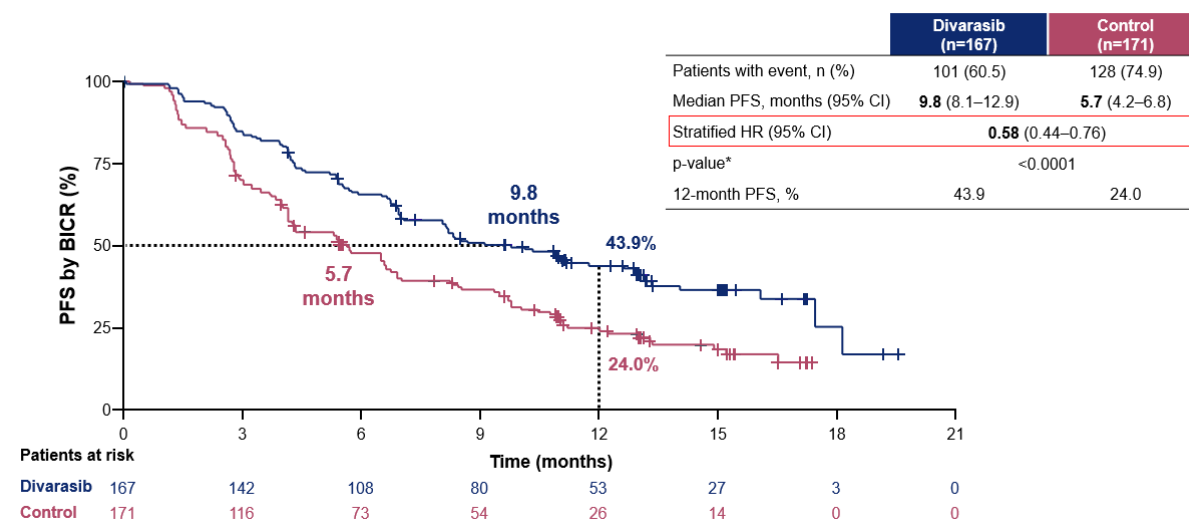
- ◆ 適切な薬剤投与量の設定
- ◆ 針が露出しないデザインによる針刺しリスク軽減と治療安心感向上
- ◆ 簡便な操作性と治療時間短縮による生活の質を向上

Divarasib：第III相 Krascendo 1 試験

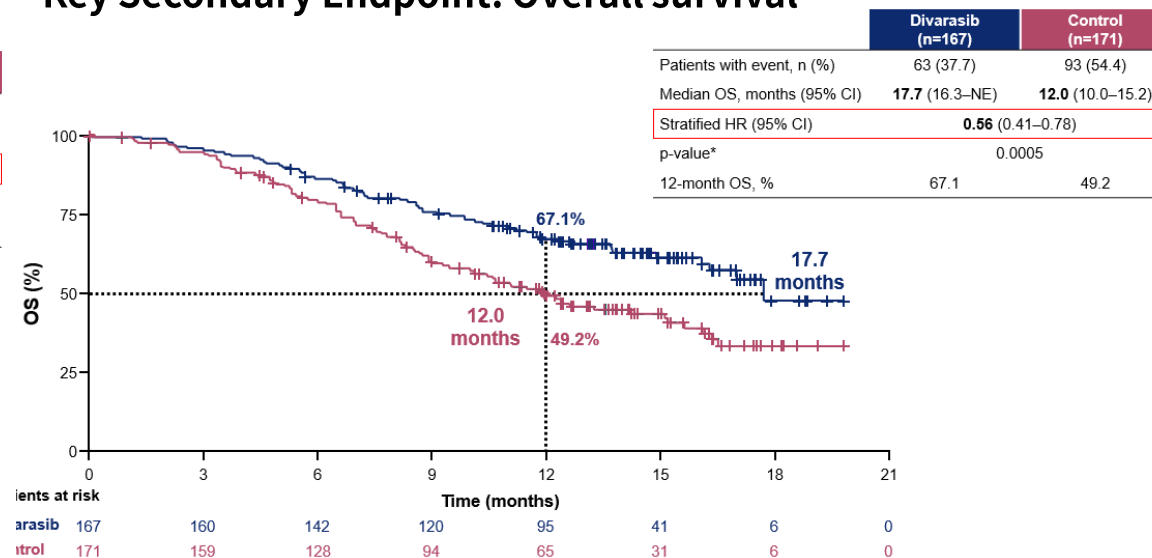
治療歴のあるKRAS G12C陽性進行又は転移性非小細胞肺癌（二次治療）

- 第III相 Krascendo 1試験において、divarasib単剤療法は第一世代のKRAS G12C阻害剤と比較して優れた有効性を示し、病勢進行または死亡のリスクを42%低減 (層別HR: 0.58、P値: <0.0001)、全生存期間 (OS) における死亡リスクを44%低減 (層別HR: 0.56、P値: 0.0005)
- 主要解析時点においてdivarasibのOS中央値は約18カ月であり、sotorasibまたはadagrasibの12カ月を上回った
- divarasibにおいて新たな安全性シグナルは認められず、頻度の高い治療関連有害事象は主に低グレードであり、管理可能なものであった
- 本データは、2026 ESMO CongressのPresidential SymposiumにおいてLate-Breaking Abstractとして発表。同時にThe New England Journal of Medicine誌に掲載
- 日本国内においては、2026年中の製造販売承認申請を予定

Primary Endpoint: Progression-free survival by BICR



Key Secondary Endpoint: Overall survival



Data cut-off: 19 May 2026. Median duration of follow up: 14.3 months. Minimal duration of follow up: 5.6 months. Control arm included treatment with sotorasib or adagrasib *Stratified log-rank test. CI, confidence interval, NE, not estimable

Source: Skoulidis F, et al. Krascendo 1: efficacy and safety of divarasib vs sotorasib or adagrasib in previously treated locally advanced or metastatic KRAS G12C-mutated NSCLC. Presented at: ESMO Congress; 2026 October 23-27; Madrid, Spain. #LBA5. HR: Hazard Ratio, BICR: Blinded Independent Central Review

今後の申請予定（P2以降開発品・製品）

申請中

ギレダ [®] ストラント酒石酸塩 (RG6171) 手術不能または 再発乳がん	バミキバルト (RG6179) UME ★	テセントリク (RG7446) ★ MSI-Highを有する結腸がん における術後補助療法	
ギレダ [®] ストラント酒石酸塩 (RG6171) 乳がん (アジュバント)	ラニビズマブ(Port Delivery Platform with ranibizumab)* (RG6321) DME	テセントリク(RG7446) 局所進行の食道がん (根治的化学放射線 療法後の維持療法)	スパルセンタン IgA腎症
エンズプリング (SA237/RG6168) ★ MOGAD (日本/米国/欧州)	ラニビズマブ(Port Delivery Platform with ranibizumab)* (RG6321) nAMD	テセントリク (RG7446) MRD陽性膀胱がん (アジュバント)	ガザイバ (RG7159) 特発性ネフローゼ症候群

自社創製品（グローバル開発）
ロシュ導入品（日本開発販売）
第三者導入品（日本開発販売）

新規 適応拡大



★ 新規追加

★ 申請年変更

バビースモ
(RG7716)
非増殖糖尿病網膜症

グローフィタマブ
(RG6026)
再発または難治性の
マンツル細胞リンパ腫

trontinemab ★
(RG6102)
アルツハイマー病

inavolisib (RG6114)
PIK3CA遺伝子変異陽性・
HER2陽性乳がん [一次治療]
(フェスコ併用)

グローフィタマブ
(RG6026)
初発大細胞型B細胞リンパ腫
(ポライビー併用)

zemocimig
(NXT007/RG6512)
血友病A

セーファキセルセナトリウム
(RG6299)
IgA腎症

cevostamab ★
(RG6160)
再発または難治性の
多発性骨髄腫

inavolisib (RG6114)
PIK3CA遺伝子変異陽性
乳がん (内分泌療法
感受性) [一次治療]

divarasib
(RG6330)
1L NSCLC

DONQ52
セリアック病

エレビジス
(RG6356)
DMD(歩行不能)

ルンスミオ
(RG7828)
未治療の濾胞性リンパ腫

enicepatide
(RG6640)
肥満症

zilebesiran
(RG6615)
高血圧症

afimkibart
(RG6631)
クローン病

divarasib (RG6330) 2L NSCLC	ガザイバ (RG7159) ループス腎炎
エンズプリング (SA237/RG6168) 甲状腺眼症 (米国除く)	ルンスミオ (RG7828) 2L 濾胞性リンパ腫
ピアスカイ (SKY59/RG6107) aHUS	グローフィタマブ (RG6026) r/r DLBCL

afimkibart (RG6631) 潰瘍性大腸炎	ガザイバ (RG7159) 腎症を伴わない 全身性エリテマトーデス
ヘムライブラ (ACE910/RG6013) III型フォン・ ヴィレブランド病	テセントリク+アバスチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん (intermediate ステージ)
エンズプリング (SA237/RG6168) 自己免疫介在性脳炎	inavolisib (RG6114) PIK3CA遺伝子変異陽性 乳がん (内分泌療法 抵抗性)

2026年

2027年

2028年

2029年以降

aHUS：非典型溶血性尿毒症症候群、DME：糖尿病黄斑浮腫、DMD：デュシェンヌ型筋ジストロフィー、MOGAD：ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質抗体関連疾患、MRD：分子的残存病変、MSI-High：高頻度マイクロサテライト不安定性、nAMD：中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性、NSCLC：非小細胞肺癌、r/r DLBCL：再発または難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫、UME：非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫

*医療機器部分2026年3月申請

第三者導出プロジェクトの進展 (1/2)

一般名/開発コード	作用機序	導出先	導出先の権利範囲	開発ステージ	予定適応症	プロジェクトの状況
avutometinib /VS-6766	RAF/MEK clamp (遮断)	Verastem Oncology	全世界の製造・開 発・販売の独占的 実施権	米国：上市済み	KRAS変異陽性の再 発低悪性度 漿液性卵巣がん (LGSOC)	● 25年5月に迅速承認制度のもと承認取得
				グローバル：P3	再発LGSOC	● RAMP 301 trial (P3) 主要解析のための患者登録を完了、日本 での患者登録継続中
				米国：P1/2	転移性膵管腺がん (一次治療) (mPDAC)	● RAMP 205 trial (P1/2、ゲムシタビン・nab-パクリタキセルお よびdefactinibとの併用)：2026年6月に報告された試験の更新 データ開示 (29例評価可能、確定ORR 52%)、患者フォロー アップ継続中
ネモリズマブ	抗IL-31RA ヒト化モノク ローナル抗体	Galderma	日本を除く全世界 の開発・販売の独 占的实施権	海外： 上市済み (米国/欧州、お よびその他の市場)	アトピー性皮膚炎 (AD) /結節性痒 (PN)	● AD/PNを対象としたグローバルピーク売上高の見通しを 2bnUSD超から4bnUSD超へと引き上げ* ● AD承認取得: 24年12月 (米国)、25年2月 (欧州) ● PN承認取得: 24年8月 (米国)、25年2月 (欧州)
				海外：P2	原因不明の慢性そう 痒症 (CPUO)	● 25年4Q開始 ● 患者登録完了
				海外：P2	全身性強皮症 (SSc)	● 26年2Q開始
一般名未定/AP306 (EOS789)	経口リン酸輸送 体阻害剤	Alebund Pharmaceut icals	全世界の製造・開 発・販売の独占的 実施権	中国/米国：P2b	高リン血症	● P2試験：投与終了時点において、AP306群はベースラインに比し 臨床的に意義のある血清中リン濃度の減少を示した ● 中国において、慢性腎臓病患者における高リン血症に対する治療 薬として、Breakthrough Therapy指定 ● 中国以外の地域におけるAP306の開発推進を目的として、DaVita (腎臓ケアのグローバルリーディングカンパニー) 等と合併会社 (R1 therapeutics) を設立 ● 米国と中国の複数の臨床施設でグローバルP2b試験 (NCT06712654)開始

* ガルデルマのガイダンスに基づく (Source: [Galderma.com](https://www.galderma.com))

第三者導出プロジェクトの進展 (2/2)

一般名/開発コード	作用機序	導出先	導出先の 権利範囲	開発ステージ	予定適応症	プロジェクトの状況
オルホルグリブ ロンカルシウム /LY3502970	非ペプチド型 経口GLP-1受 容体作動薬	Eli Lilly and Company	全世界の 開発・販 売権	米国：上市済み		● 2026年2Qに米国FDAより承認取得
				グローバル： P3 欧州/日本：申請	肥満症	● 申請：2025年4Q（日本）、2026年1Q（欧州） ● P3試験（ATTAIN-1）＊：72週時点において、オルホルグリブ® の投与群は、最高用量で平均12.4%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ATTAIN-2）＊：肥満症または過体重の2型糖尿病の成人に対して、72週時点において、オルホルグリブ® の投与群は、最高用量で平均10.5%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ATTAIN-MAINTAIN）＊：体重維持に関する主要評価項目を達成し、52週時点において、セマグルチン® からオルホルグリブ® に切り換え後の体重差の平均は0.9kg、フルベパ® からオルホルグリブ® に切り換え後の体重差の平均は5.0 kgであった。
				グローバル： P3 米国/欧州/日本：申請 ★	2型糖尿病	● 申請：2026年1Q（欧州）、2026年2Q（米国、日本）★ ● P3試験（ACHIEVE-1）＊：40週時点において、オルホルグリブ® の投与群は、HbA1Cについて平均1.3～1.6%の低下と最高用量で7.9%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ACHIEVE-2）＊：主要評価項目を達成し、ダパグリフロジン® に対する優越性を示した。40週時点において、オルホルグリブ® の投与群は、HbA1Cについて平均1.3～1.7%の低下が認められた。 ● P3試験（ACHIEVE-3）＊：主要評価項目を達成し、経口セマグルチン® に対する優越性を示した。52週時点において、オルホルグリブ® の投与群は、HbA1Cについて平均1.9～2.2%の低下と最高用量で9.2%の体重減少が認められた。 ● P3試験（ACHIEVE-4）＊：インスリン グリゲント® との比較において、主要評価項目である主要心血管イベント（MACE-4）の初回発生までの期間について非劣性を達成した。 ● P3試験（ACHIEVE-5）＊：40週時点において、オルホルグリブ® の投与群は、HbA1Cについて平均1.5～2.1%の低下が認められた。
				グローバル：P3	睡眠時無呼吸症候群	● 24年4Q開始
				グローバル：P3	高血圧症	● 25年3Q開始
				グローバル：P3	変形性関節症	● 25年4Q開始
				グローバル：P3	腹圧性尿失禁	● 25年4Q開始
				グローバル：P3	主要心血管イベント(MACE)の発生に対するオルホルグリブ® の効果の評価**	● 25年4Q開始
				グローバル：P3	末梢動脈疾患	● 26年1Q開始

*安全性プロファイルは注射型GLP-1製剤と概ね同様であった **アテローム性動脈硬化性心血管疾患および/または慢性腎臓病患者

★：前回決算からの変更点

2026年第3四半期 連結決算(Core)概要

取締役 上席執行役員 CFO

谷口 岩昭

損益 1-9月 前年同期比

【億円】	2025年	2026年	増減	
売上収益	9,116	10,681	+ 1,565	+ 17.2%
製商品売上高	7,946	9,068	+ 1,122	+ 14.1%
国内	3,437	4,063	+ 626	+ 18.2%
海外	4,509	5,005	+ 496	+ 11.0%
その他の売上収益	1,171	1,613	+ 442	+ 37.7%
売上原価	△ 2,633	△ 3,143	△ 510	+ 19.4%
製商品原価率	33.1%	34.7%	+1.6pts	-
研究開発費	△ 1,288	△ 1,412	△ 124	+ 9.6%
販売費及び一般管理費	△ 694	△ 769	△ 75	+ 10.8%
その他の営業収益（費用）	4	4	0	0.0%
営業利益	4,505	5,361	+ 856	+ 19.0%
営業利益率	49.4%	50.2%	+0.8pts	-
金融収支等	△ 19	113	+ 132	-
法人所得税	△ 1,286	△ 1,627	△ 341	+ 26.5%
四半期利益	3,200	3,847	+ 647	+ 20.2%
EPS（円）	194.44	233.77	+ 39.33	+ 20.2%

■ 国内

薬価改定や後発品浸透等の減少影響を受けたものの、主力品や新製品の伸長および出荷タイミングの影響により増加

■ 海外

NEMLUVIOおよびアレセンサが増加

■ その他の売上収益

主にヘムライブラ、NEMLUVIOに関するロイヤルティ収入および一時金収入が増加

■ 売上原価

製品別売上構成比の変化等により、製商品原価率が上昇

■ 研究開発費

創薬・早期開発プロジェクトの進展に伴い増加

■ 販売費及び一般管理費

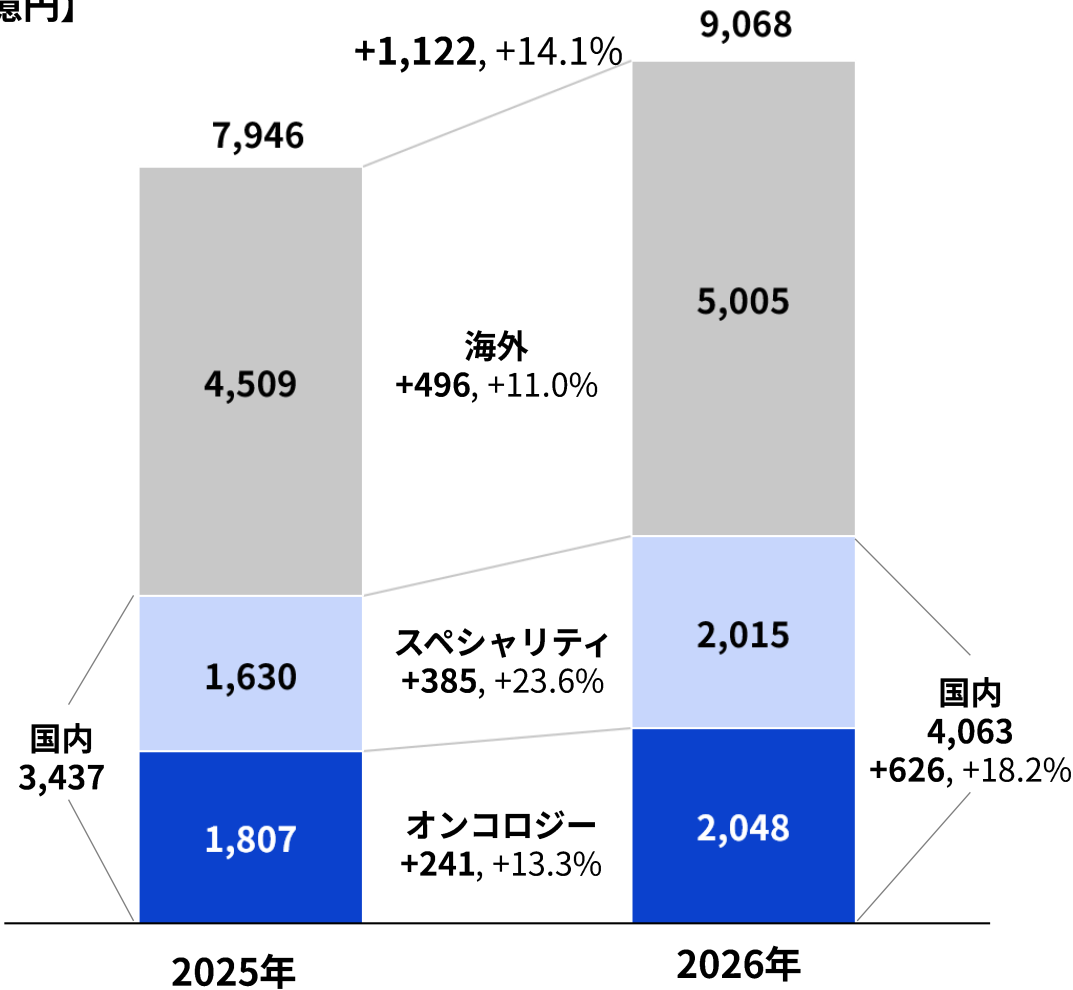
法人事業税（外形標準課税）および一時的な諸経費等の増加

製商品売上高 1-9月 前年同期比

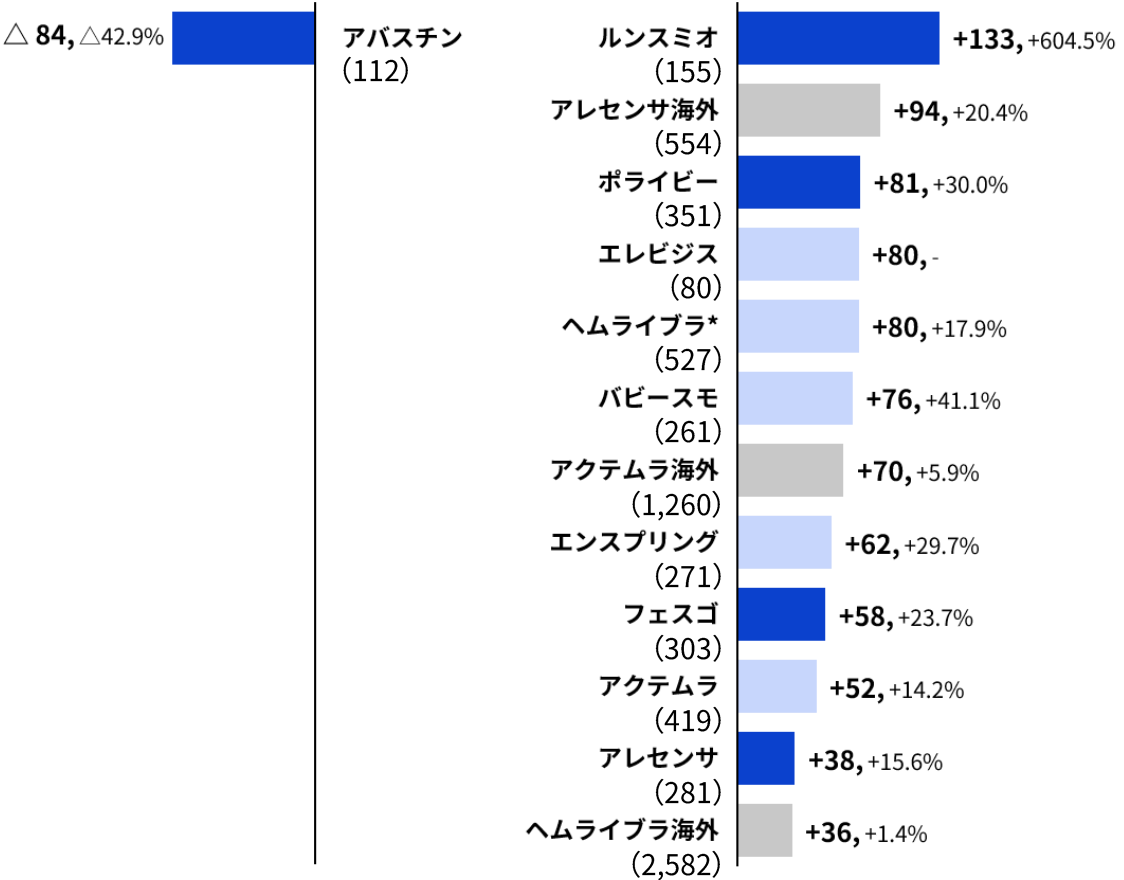
領域別売上高の比較

主な製商品売上高の増減

【億円】



()内は2026年実績 %は増減率
*国内血友病A患者シェア 2026年3Q 39.7% (2025年3Q比+2.0pts)

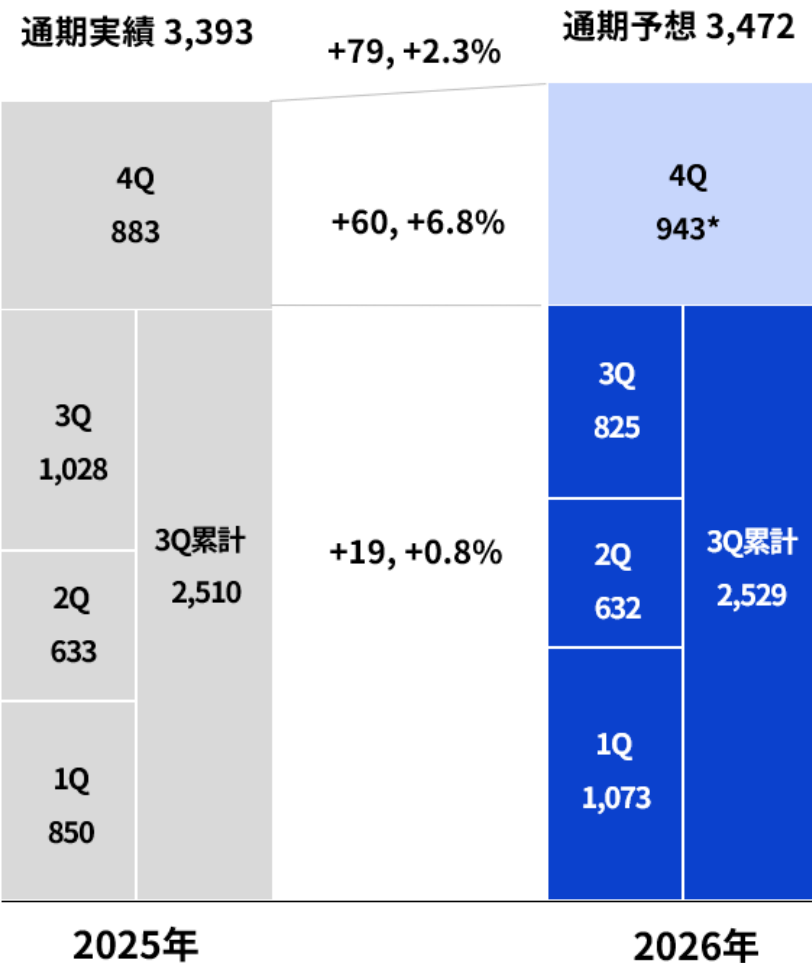


ヘムライブラおよびアクテムラ ロシュ向け輸出

【億円】

＜ヘムライブラ＞

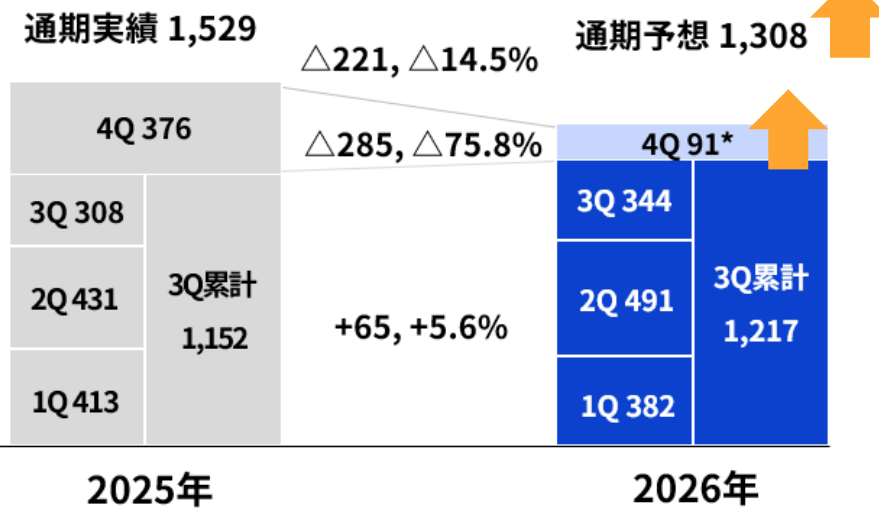
*予想残高



■ロシュ向け輸出

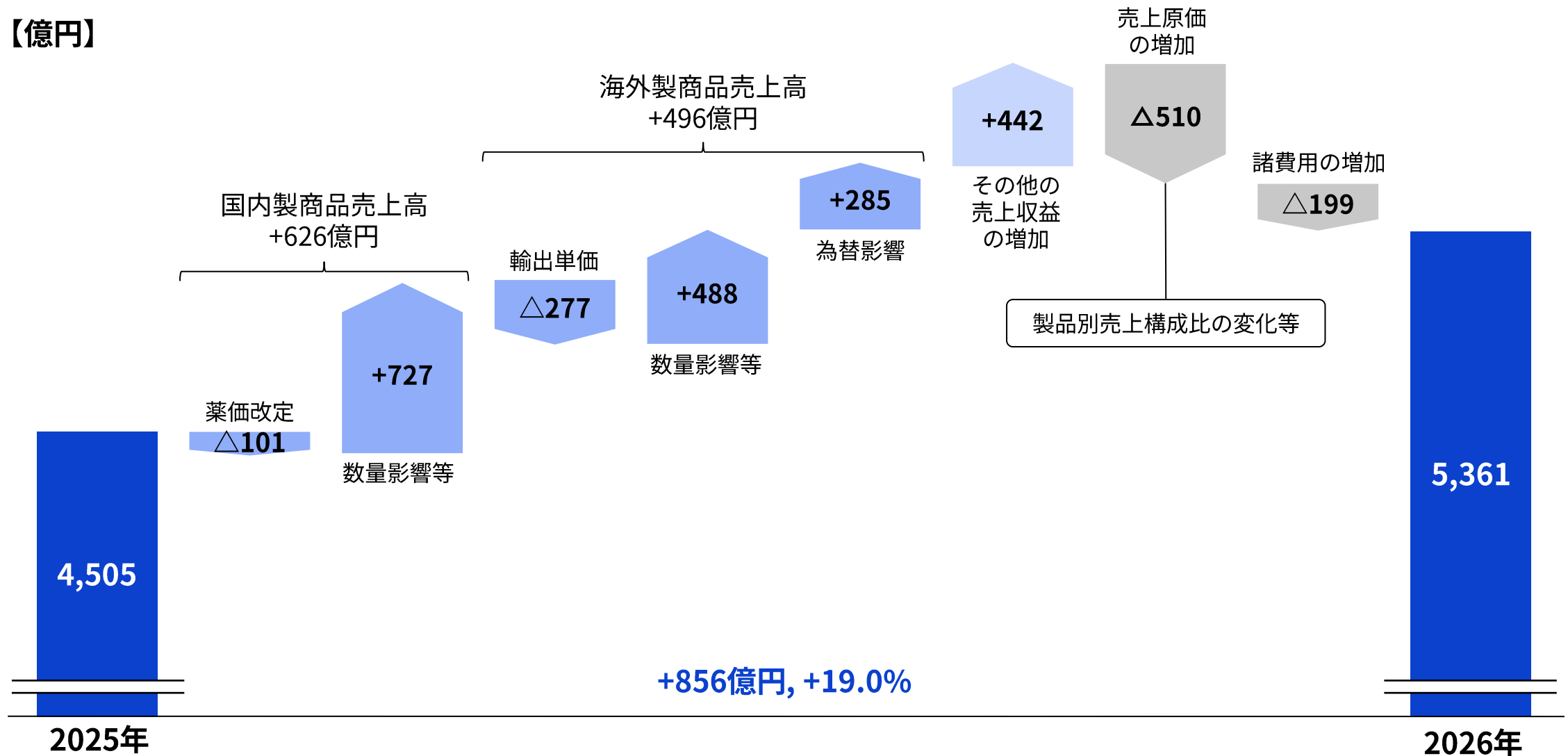
アクテムラがGlobalでの好調な販売進捗を受け
通期予想から上振れ見込

＜アクテムラ＞



営業利益 1-9月 増減

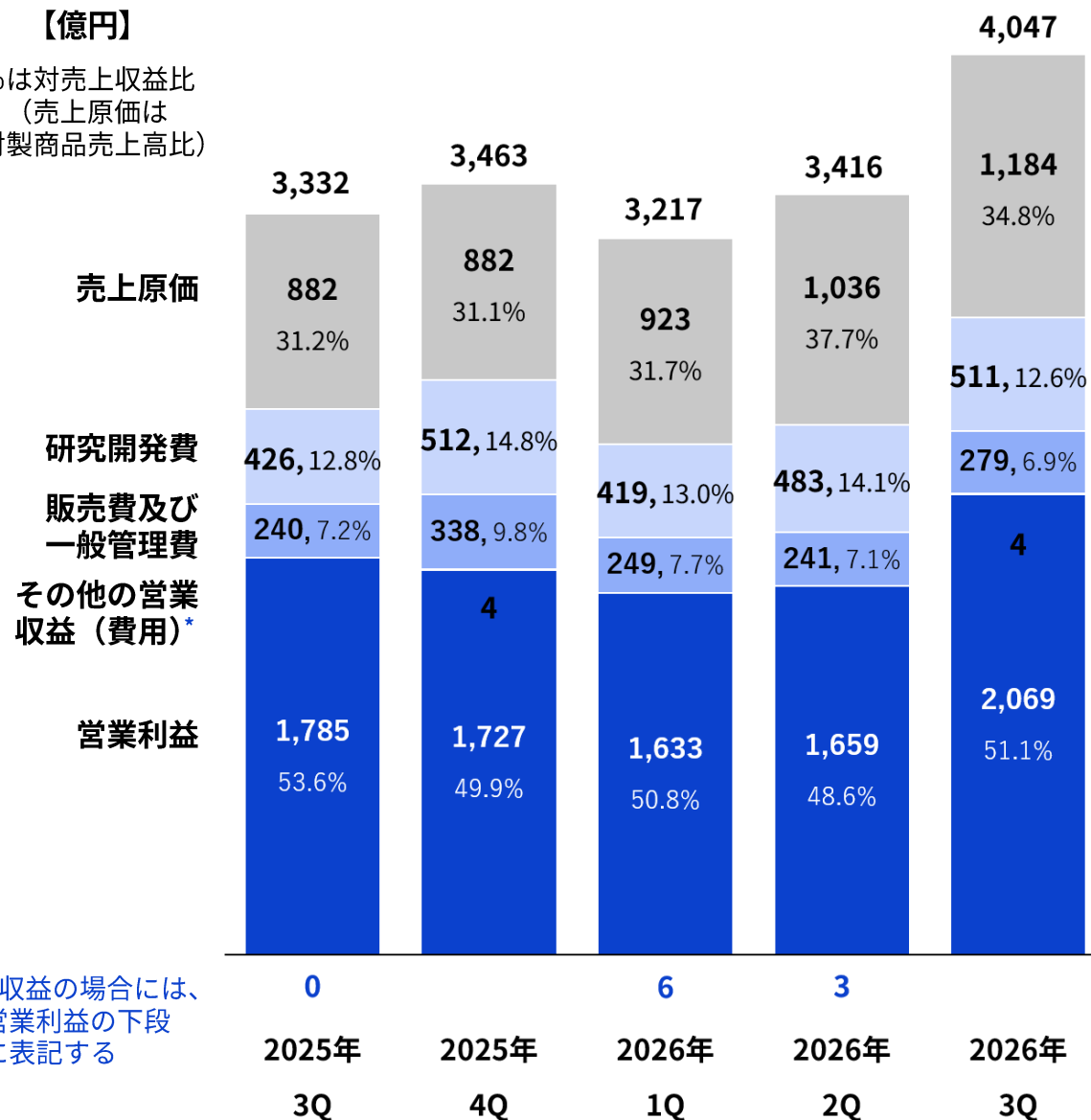
【億円】



損益の構成 四半期推移

【億円】

%は対売上収益比
 (売上原価は
 対製商品売上高比)



■前年同四半期（2025年3Q）比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により上昇

研究開発費は創薬・早期開発プロジェクトの進展に伴い増加

販売費及び一般管理費は主に一時的な諸経費等が増加

その他の営業収益（費用）は前年同四半期並み

営業利益 +284億円, +15.9%

■前四半期（2026年2Q）比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により改善

研究開発費は創薬・早期開発プロジェクトの進展に伴い増加

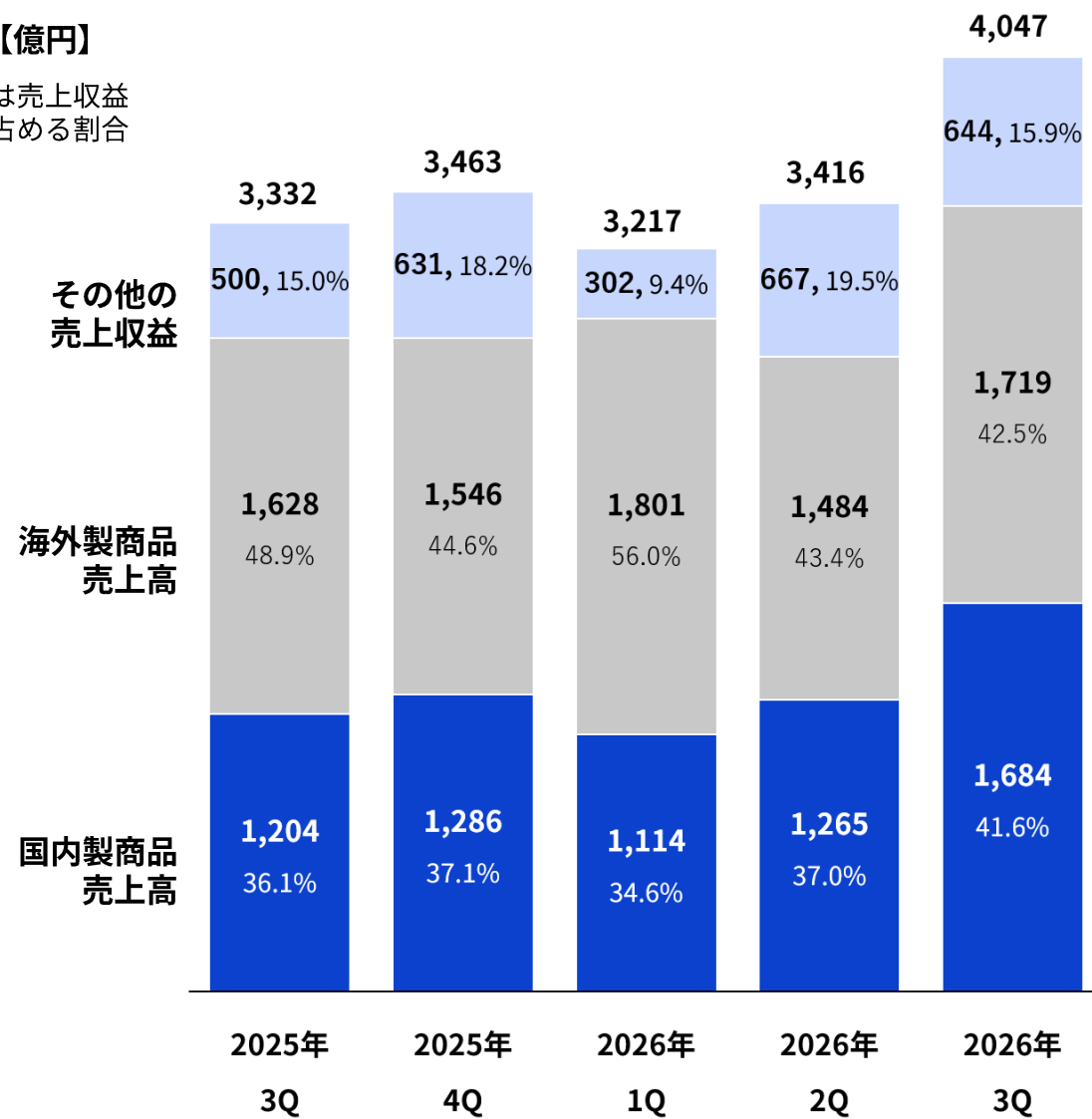
販売費及び一般管理費は主に一時的な諸経費等が増加

その他の営業収益（費用）は前四半期並み

営業利益 +410億円, +24.7%

売上収益の構成 四半期推移

【億円】

 %は売上収益
 に占める割合


■前年同四半期（2025年3Q）比

国内は主力品や新製品の好調な推移、
 出荷タイミングの影響により増加
 海外はNEMLUVIOおよびアレセンサが増加
 その他の売上収益はロイヤルティ収入が増加

■前四半期（2026年2Q）比

国内は主力品や新製品の好調な推移、
 出荷タイミングの影響により増加
 海外はヘムライブラ、アレセンサ、NEMLUVIOが増加
 その他の売上収益はロイヤルティ収入が増加した一方で、
 一時金収入が減少

損益 1-9月 予想比

【億円】	実績	予想		2025年
	2026年 1-9月	2026年 1-12月	進捗率	進捗率*
売上収益	10,681	13,450	79.4%	72.5%
製商品売上高	9,068	11,000	82.4%	73.7%
国内	4,063	4,980	81.6%	72.8%
海外	5,005	6,020	83.1%	74.5%
その他の売上収益	1,613	2,450	65.8%	65.0%
売上原価	△ 3,143	△ 3,835	82.0%	74.9%
製商品原価率	34.7%	34.9%	-	-
研究開発費	△ 1,412	△ 1,900	74.3%	71.5%
販売費及び一般管理費	△ 769	△ 1,020	75.4%	67.2%
その他の営業収益（費用）	4	5	80.0%	-
営業利益	5,361	6,700	80.0%	72.3%
営業利益率	50.2%	49.8%	-	-
当期（四半期）利益	3,847	4,850	79.3%	71.0%
EPS（円）	233.77	295.00	79.2%	71.0%

*2025年通期実績に対する2025年 1-9月実績の進捗率

- 国内
概ね想定通りの進捗
- 海外
アクテムラのロシュ向け輸出が想定に比べ好調な進捗
- その他の売上収益
概ね想定通りの進捗
- 売上原価
1-9月の製商品原価率としては概ね想定通り
- 研究開発費
概ね想定通りの進捗
- 販売費及び一般管理費
概ね想定通りの進捗

製商品売上高 1-9月 予想比

【億円】	実績	予想		2025年 進捗率*
	2026年 1-9月	2026年 1-12月	進捗率	
製商品売上高	9,068	11,000	82.4%	73.7%
国内	4,063	4,980	81.6%	72.8%
オンコロジー領域	2,048	2,592	79.0%	73.3%
テセントリク	488	611	79.9%	73.2%
ポライビー	351	425	82.6%	72.6%
フェスゴ	303	351	86.3%	72.3%
アレセンサ	281	328	85.7%	72.5%
ルンスミオ	155	284	54.6%	66.7%
カドサイラ	130	165	78.8%	73.0%
アバスチン	112	137	81.8%	75.1%
パージェタ	76	111	68.5%	76.8%
Foundation Medicine	58	78	74.4%	75.9%
その他	93	101	92.1%	73.8%

【億円】	実績	予想		2025年 進捗率*
	2026年 1-9月	2026年 1-12月	進捗率	
スペシャリティ領域	2,015	2,388	84.4%	72.2%
ヘムライブラ	527	666	79.1%	71.3%
アクテムラ	419	462	90.7%	72.7%
エンスプリング	271	319	85.0%	71.6%
バビースモ	261	301	86.7%	70.6%
エブリスディ	129	152	84.9%	74.1%
エレビジス	80	120	66.7%	-
ピアスカイ	76	83	91.6%	69.6%
セルセプト	56	71	78.9%	75.0%
その他	196	213	92.0%	74.3%
海外	5,005	6,020	83.1%	74.5%
ヘムライブラ	2,582	3,540	72.9%	73.9%
アクテムラ	1,260	1,363	92.4%	75.2%
アレセンサ	554	604	91.7%	77.7%
エンスプリング	110	92	119.6%	76.1%
ノイトロジン	67	70	95.7%	75.3%
シグマート	49	24	204.2%	78.8%
その他	382	326	117.2%	62.0%

*2025年通期実績に対する2025年1-9月実績の進捗率

為替影響額 1-9月



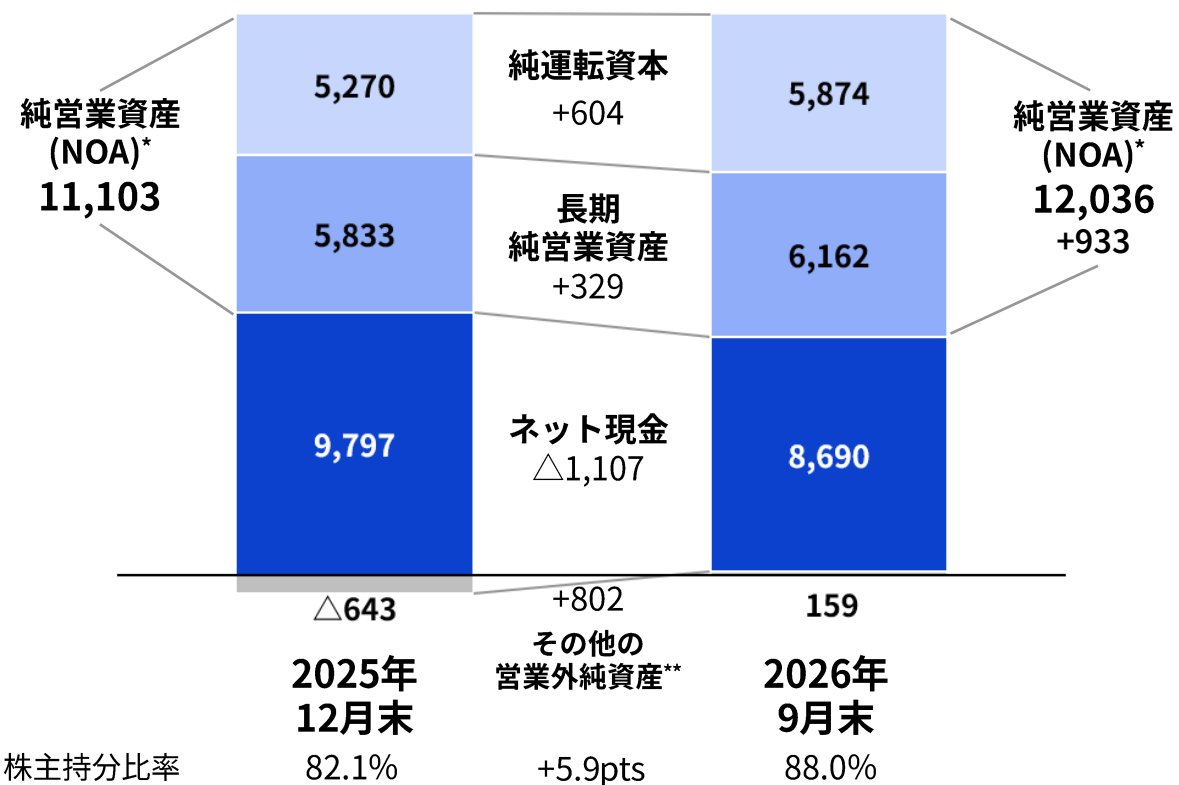
	対2025年 実績レート 【C】 vs. 【A】	対2026年 想定レート 【C】 vs. 【B】		2025年 実績レート** 1-9月 【A】	2026年 想定レート 1-9月 【B】	2026年 実績レート** 1-9月 【C】	2026年 期中市場 平均レート*** 1-9月	2026年 想定レート 通期
売上収益	+406億円	+8億円						
製商品売上高	+285億円	△13億円	1CHF	171.62円	184.13円	184.21円	199.31円	184.00円
その他の売上収益	+120億円	+20億円						
売上原価	△102億円	△0億円	1EUR	165.47円	179.00円	183.86円	184.08円	179.00円
上記以外*	△38億円	△6億円						
営業利益	+266億円	+1億円	1USD	146.36円	149.99円	153.17円	158.49円	151.00円

* 研究開発費、販売費及び一般管理費、その他の営業収益（費用）の合計
** 営業利益までの科目に含まれる外貨建取引に使用した計上レートを加重平均したもの
*** 決算期間中の市場為替レートを平均したもの

財政状態9月末 前期末比

【億円】

資産合計	24,686	△943	23,743
負債合計	△4,429	+1,571	△2,858
	20,257	純資産合計 +628	20,885



● 純運転資本の増加

営業債務の減少や棚卸資産の増加等により増加

● 長期純営業資産の増加

以下への投資を主因として有形固定資産が増加

- ✓ 浮間事業所における低・中分子およびバイオ研究棟(UKX)
- ✓ 浮間工場におけるバイオ原薬製造棟改造工事 (UK3)

● ネット現金の減少

次ページ参照

● その他の営業外純資産の増加

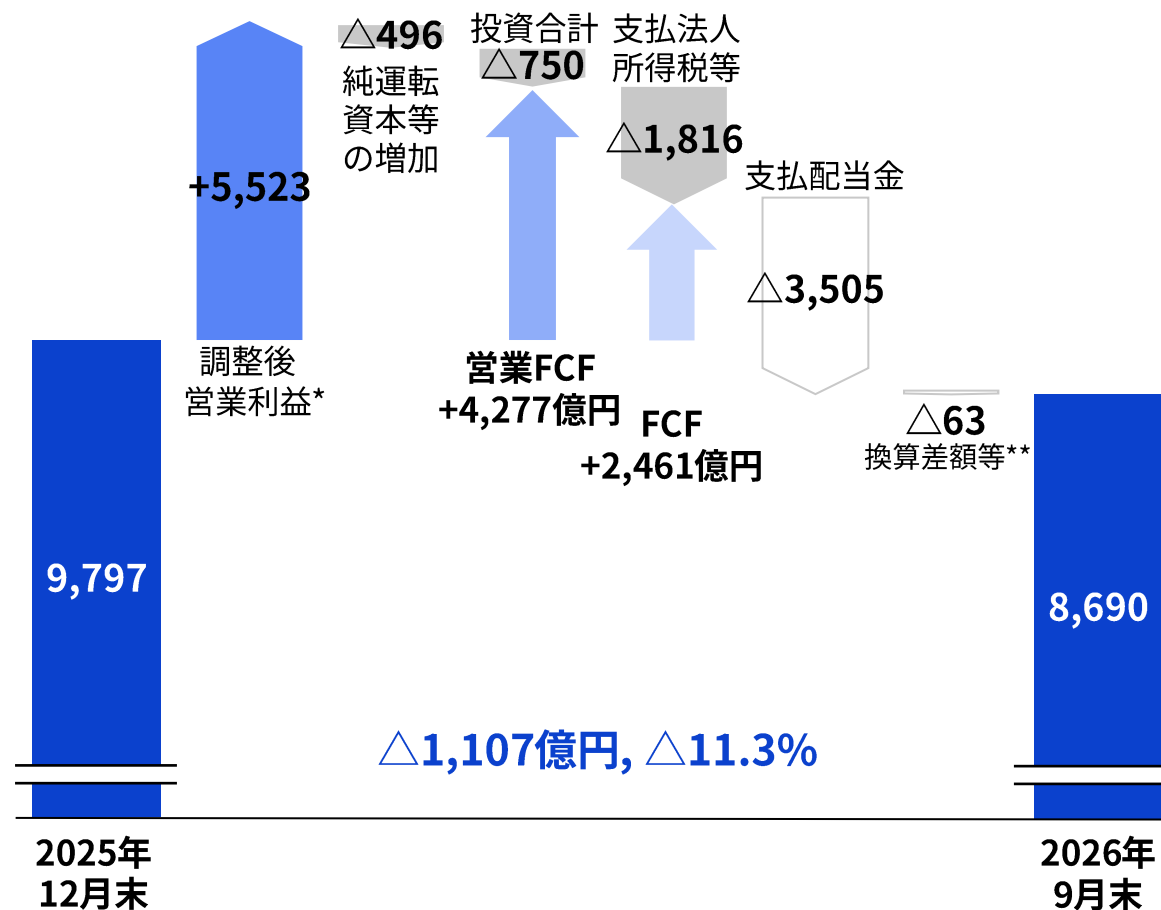
主に為替予約負債が減少

* NOA : Net Operating Assets

** 例：繰延税金資産、未払法人所得税等

ネット現金 前期末からの増減

【億円】



* Non-Core含む (IFRS実績)

** 「換算差額等」 = 「自己株式の減少 (増加)」 + 「ネット現金の換算差額 (***)」等

*** 在外子会社の財務諸表の換算レート (ネット現金: 期末日レート / FCF: 期中平均レート) の違いから発生 (IAS第7号・IAS第21号を参考に、当社が定義)

■ 調整後営業利益*	+5,523 億円
営業利益*	+5,226 億円
減価償却費、償却費および減損損失*	+287 億円
■ 純運転資本等の増加	△496 億円
■ 投資合計	△750 億円
有形固定資産の取得による支出	△567 億円
リース負債の支払いによる支出	△70 億円
無形資産の取得による支出	△113 億円
営業フリー・キャッシュ・フロー	+4,277 億円
■ 支払法人所得税等	△1,816 億円
支払法人所得税	△1,762 億円
フリー・キャッシュ・フロー	+2,461 億円
■ 支払配当金	△3,505 億円
■ 換算差額等**	△63 億円

損益 1-9月 Non-Core調整

【億円】	IFRS実績	Non-Core調整		Core実績
		無形資産	その他	
売上収益	10,681			10,681
製商品売上高	9,068			9,068
その他の売上収益	1,613			1,613
売上原価	△ 3,161	+18	+0	△ 3,143
研究開発費	△ 1,395	+1	△18	△ 1,412
販売費及び一般管理費	△ 903		+134	△ 769
その他の営業収益（費用）	4			4
営業利益	5,226	+19	+116	5,361
金融収支等	113			113
法人所得税	△ 1,586	△6	△35	△ 1,627
四半期利益	3,753	+13	+81	3,847
EPS (円)	228.07			233.77

Non-Core調整

営業利益影響内訳

■無形資産

償却費 +19億円

■その他

事業再構築費用等 +116億円

主な投資等の現状と当面の計画

		~2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031~	投資予定額		期間*		
									総額	既投資額			
製造系	浮間工場	UK3（改造工事）：バイオ原薬製造								203億円	142億円	2024年	2027年
研究開発系	CPR	研究機能拡充に伴う施設移転								60百万SGD	58百万SGD	2024年	2026年 (完了)
	IFReC	IFReCへの包括連携契約に基づく資金提供								100億円	95億円	2017年	2027年
	浮間事業所	UKX：低・中分子およびバイオ医薬品の製法開発機能強化								800億円	195億円	2026年	2028年
環境	環境投資**	中期環境目標2030達成に向けた設備更新等								1,362億円 (試算総額)	179億円	2022年	2032年

* 設備投資は着手年から完成予定年を表す

** 表内に記載されている投資案件の一部を含む

お問い合わせ先

広報IR部

報道関係者の皆様：メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881
E-mail : pr@chugai-pharm.co.jp
担当 : 香西、塩原、平野、宮澤、和泉

投資家の皆様：インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554
E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp
担当 : 櫻井、島村、山田、池ヶ谷、大塚

創造で、想像を超える。



中外製薬

